**＜3回目のお話＞的を外れた矢**

◆**代表者による祈り**

◆**分かち合い**

この世で一番大きな罪は何でしょうか？なぜ、それが一番大きな罪なのでしょうか？人の中に罪のない人はいるでしょうか？もし罪を犯したならば、その罪の代価はどうやって支払えるでしょうか？自分の考えを分かち合って下さい。

◆**御言葉を開いてみましょう**

創世記3:6-10

◆**御言葉を知る**

なぜ人は生きていく間、虚しさと煩い、関係の苦しみから逃れられないのでしょうか。そして、なぜ人は結局死を迎えるしかないのでしょうか。私たちはこのことに対する答えを聖書から得ることができます。聖書は、矢が的を外れるように、人が創造主なる神様のみ旨を離れ、罪に陥ったことによって絶望的な状況に置かれるようになったと言っています。

**1．罪の起源**

罪の起源を述べる前に、まず私たちは天上の世界において起きた出来事を見てみなければなりません。神様は天使を造られ、神様に仕えるようにされました。ところが、天使のうちのある群れが神様に反逆し、そのことによって彼らの神様との関係が断絶し、罪が生まれました（イザヤ14:12－15）。聖書は、この堕落した天使の頭をサタンまたは悪魔と呼びます（マタイ4:1、10）。これらの天使が堕落した理由について、聖書は彼らが傲慢であり、被造物としての領域を守らなかったからだと言っています（ユダ1:6）。

天上における堕落は、この世にまで影響を及ぼしました（創世記3:1－6）。創世記において蛇として描写されているサタンは、エデンの園で平和に生きていたエバに接近し、神様が食べるなと命じられた善と悪を知る木の実を食べるよう誘惑しました。サタンはエバに嘘をついて神様の御言葉を疑うようにさせ、エバはこれに引っかかって善と悪を知る木の実を食べる罪を犯しました。そして、夫のアダムもエバとともにその実を食べることで罪を犯しました。罪を犯したアダムとエバは、堂々としていた以前とは違い、羞恥心を感じるようになり、互いに対して罪の責任をなすりつけ、あれほど親密だった神様を恐れて避けるようになりました（創世記3:7－13）。結局、二人は神様から裁きを受け、アダムは一生、汗を流して苦しんで糧を得るようになり、エバは苦しんで子を産むようになりました。さらに、彼らはエデンの園から追い出され、病と死を避けられなくなりました（創世記3:16－24）。

私たちは人類の祖先であるアダムとエバがエデンの園で犯した罪を「原罪」と呼び、聖書は彼らの罪が彼らの子孫である全人類に及んだと言っています（ローマ5:12）。それでローマ3:23は「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」と言っています。結局すべての人が罪の影響下にあることで神様との関係が断絶し、一生の間、罪悪感と虚しさ、恐れに包まれ、他人との葛藤の中を生きるようになりました。

**2．罪の結果**

罪はすべての人々に次のような絶望的な結果をもたらしました。

第一に、罪によって、人は神様と他人、そして本当の自分自身からも断絶された人生を生きるようになりました。罪は、命の源なる神様から人を断絶させました。神様との関係が断たれた人は、いつも霊的な虚しさを感じながら生きるしかありません。また、罪は人と他人との関係を断ちました。罪により、まるで底の抜けた瓶に水を注ぐかのごとく、なにをもっても自らの虚しさを満たせなくなった人は、他人を心から愛する余裕がありません。だから、人間関係には優越感、劣等感、反目、無関心などが存在します。さらに、罪は人を本当の自分自身から断絶させました。人の本来の務めである、神様を喜び、栄光を捧げる人生から遠ざかった人は、いつもアイデンティティーに混乱を感じます。そして、自分がどこからきて、なぜ生き、どこに行くのかを知らずに彷徨いながら暮らします。

第二に、罪によって人は神様から罪に定められるようになりました。原罪によって、すべての人は罪に対する責任から逃れられず、神様の御前にあって罪人です。そして、神様から罪に定められた人は、悔い改めてイエス様を救い主として受け入れない限り、今のこの瞬間も裁きを受けており、終わりの時には永遠の裁きを受けます（ヨハネ3:18、黙示録20:11－15）。

第三に、罪によって人は罪の奴隷となりました。奴隷はすべての行為が主人に隷属し、主体性を持つことができません。だから、人が罪の奴隷になったということは、人が罪に縛られ、罪に従うようになったということを意味します（ローマ6:16－17）。もちろん、一般的な恵みゆえに、人はある程度の善を行うことができます。しかし、人は善を行いながらも、他方では自らの義に酔いしれ、傲慢になる存在です。つまり、自らの良心に従った善行は制限的で不十分です。結局、人は罪の束縛から自由になることはできません。

人は決して自らの力で上記のような絶望的な状況から抜け出すことはできません。ただイエス・キリストだけが人を罪の泥沼から救い出すことができます。

**3．罪の本質と罪に打ち勝つ人生**

罪の本質は「失敗」だと言えます。つまり、罪とは神様の御言葉に従うのに失敗した行為だということです。最初に罪を犯したアダムとエバは善と悪を知る木の実を食べるなという神様の命令に従うのに失敗しました。そして、その失敗を彼らの子孫も同じく繰り返しています。さらに、罪の本質は「傲慢」です。罪とは、サタンが被造物としての領域を離れ、神様の領域を欲した傲慢から始まりました。今日においても、人々は被造物という自分の領分を忘却し、創造主なる神様ではなく、自分自身を人生の主人として定めて生きていっています。

最初の人、アダムは罪に屈服し、それによって彼の子孫はすべて罪の下に置かれることとなりました。しかし、アダムの種から生まれなかった神の御子イエス様は、すべての罪の誘惑に打ち勝ち、謙遜に神様に従う一生を送られ、最後には十字架につけられて亡くなられることで、神様のみ旨をなすのに成功されました。よって、私たちが罪に打ち勝つためには、このようなイエス様に似ていかなければなりません。イエス様は毎日聖霊様とともに歩まれ、神様に従い、命を捧げてまで人々を愛されました。いつも聖霊充満で、御言葉に従い、イエス・キリストの心をもって隣人を愛しながら生きるとき、私たちは罪に打ち勝つことができます。

◆**祈り及びとりなしの祈り**

1．神様の御言葉に従う人生を送れるよう祈りましょう。

2．謙遜になって、神様を私の人生の主として受け入れて生きられるように祈りましょう。

3．イエス様のように聖霊様とともに歩み、神様に従い、隣人を愛しながら生きられるように祈りましょう。

4．隣の人と祈りの課題を分かち合い、ともに祈りましょう。

以上の内容はヨイド純福音教会区域礼拝テキストから抜粋、追加、翻訳、再構成したものです。